

【印旛沼クリーン大作戦】

活動報告書



報告者： 東洋大学 2年

氏名： 中山紗瑛

報告日： 平成 28年9月20日

特定非営利活動法人

国際ボランティア学生協会



活動概要

【背景】

千葉県北西部に位置する印旛沼は古くから、遊び場や飲み水として使われ、地元住民にとってとても身近な存在でした。しかし近年、人口増加や都市開発、生活排水の流入などによる水質汚濁や、それに伴う生態系の破壊などの問題を抱えています。

今では、ナガエツルノゲイトウという特定外来生物が湿地、河川、農業用水路等、印旛沼流域に急激に繁茂しており、これらの群落が大和田排水機場のポンプに詰まることで、洪水被害にもつながる恐れがあるなど地域の安心、安全に影響を及ぼしています。また、景観、農業・漁業資源、生物多様性の保全の早期対策も求められています。

「そんな印旛沼を変えたい。」「再び地元住民にとって身近な存在にしたい。」と思い企画した活動が IVUSA の夢企画というイベントで最優秀賞を受賞し、本格的に動き始めました。



印旛沼流域 神崎川に繁茂するナガエツルノゲイトウ



夢企画の写真

【目的】

「地元の方々にとって身近な沼にする。」

かつて、そのまま水が飲めたり、気軽に水遊びができたりした印旛沼は今では様々な問題を抱え、地元の方と疎遠な存在になってしまいました。印旛沼の抱える様々な問題の原因となる「ナガエツルノゲイトウ」。この特定外来生物を除去し、大和田排水機場の治水リスクを軽減することをはじめ、水質汚濁、漁師さんや農家さんの悩みを解決することにより、かつてのような身近な沼へ一歩近づける。

【概要】

■主催

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 IVUSA
印旛沼流域水循環健全化会議

■活動日程

平成 28 年 8 月 18 日（木）・19 日（金）・20 日（土）

■活動場所

千葉県印西市 神崎川佐山橋上流

■活動内容

8 月 18 日（木）ナガエツルノゲイトウ除去活動
8 月 19 日（金）ナガエツルノゲイトウ除去活動・関係者の皆様との交流会（BBQ）
8 月 20 日（土）ナガエツルノゲイトウ除去活動・川岸のゴミ拾い・事後勉強会

■参加人数

3 日間合計 延べ 334 人（関係者 91 人含む）

■総作業(ボランティア)時間

1160 時間

■参加者所属大学

東洋大学、国土館大学、東京家政大学、埼玉県立大学、日本大学、法政大学、國學院大學、日本薬科大学、高崎経済大学、駒澤大学、武蔵野大学、昭和女子大学、拓殖大学、立命館大学、関西大学、近畿大学、京都外国語大学、龍谷大学、長浜バイオ大学

■協力

印旛沼流域水循環健全化会議
千葉県県土整備部 河川環境課
千葉県県土整備部 千葉土木事務所
千葉県県土整備部 印旛土木事務所
印西市環境経済部 環境保全課
印西市都市建設部 土木管理課
八千代市安全環境部 環境保全課
国立研究開発法人 土木研究所水環境研究グループ
独立行政法人水資源機構 千葉用水総合管理所
印旛沼土地改良区
水土里ネット印旛沼
環境パートナーシップちば
パシフィックコンサルタンツ株式会社
千葉大学
東邦大学

■寄付・協賛

株式会社オーシャンライフ
パシフィックコンサルタンツ株式会社

活動内容

8 月 18 日（木）

午前 8 時 30 分に千葉ニュータウン中央駅に集合した学生たちは徒歩で移動し 9 時 35 分に武西集会所に到着しました。9 時 55 分に開会式が行われ、印旛沼流域水循環健全化会議の生態系ワーキング座長の長谷川雅美教授から「作業をしながら、生き物と触れ合える楽しい気持ちを知ってほしい」とお話を頂きました。全員で円陣を組んだ後、5 つの現場に分かれ、作業を開始しました。1 日目は試行錯誤しながら除去作業を行いました。午前の作業を終え昼食をとった後、30 分ほどのゲリラ豪雨に見舞われましたが、河川の様子を確認し実施可能と判断したため作業を再開しました。1 日目は合計約 4 トンのナガエツルノゲイトウを除去することができました。午後の活動終了後、使った道具を洗い、バスでテントのあるサンセットヒルズへ向かいました。テントで夕食をとった後、隊内で交流会を行いより隊が一つになりました。その後は早めに就寝し、翌日に備えました。



開会式の様子



作業前の準備の様子



ナガエツルノゲイトウの除去作業



隊内での交流会の様子

8月19日（金）

7時に朝食を食べた後、バスで移動し8時30分に武西集会所に到着しました。全員で声を出して気合を入れ、各現場へ分かれました。そのうちの1つの現場は午前中で除去作業が終了し、全体では午前中に約9トンのナガエツルノゲイトウを除去することができました。この日は1日中晴天に恵まれ、約6時間除去作業を行いました。2日目は合計約24トンのナガエツルノゲイトウの除去に成功しました。午後の活動が終了した後はバスでサンセットヒルズに戻り、19時頃からは活動に参加してくださった関係者の皆様や地元の方々と楽しくBBQを行いました。地元の農家さんから頂いた野菜や果物をおいしく食べながら、除去活動の振り返りをしたり印旛沼の現状について話したり、他愛のない会話をしたりして絆を深めました。その後は早めに就寝し、最終日に備えました。



ナガエツルノゲイトウの運搬作業①



ナガエツルノゲイトウの運搬作業②



関係者の皆様との交流会（BBQ）の様子①



関係者の皆様との交流会（BBQ）の様子②

8月20日（土）

朝から大雨で活動できるかという不安の中、朝食を食べた後、テントをたたんでバスでサンセットヒルズを出発しました。10時30分ごろに雨風はやんだものの、川が増水し作業は危険と判断したため、除去作業は中止となりました。その代わりに川岸やその周辺のゴミ拾いと2日目に除去したナガエツルノゲイトウの運搬を行いました。その後は道具を洗ってきれいにしたり集会所を掃除したりして集会所をあとにしました。バスで船穂コミュニティセンターへ移動した後、関係者の皆様と事後勉強会を行いました。活動の振り返りや今後の印旛沼・継続活動について意見を交わしました。短い時間ではありましたが印旛沼の未来について考える有意義な時間となりました。関係者の皆様をお見送りした後は広場で解団式を行い、プロジェクト幹部から最後の話をした後、バスで千葉ニュータウン中央駅に移動し学生は20時に解散しました。体調不良者を出すこともなく無事3日間を終えることができました。



集積所に積み上げられたナガエツルノゲイトウ



事後勉強会の様子①



事後勉強会の様子②



事後勉強会の様子③

活動成果

活動にはのべ91名の関係者の方、地元の方が参加してくださいました。

3日目には大雨の影響で除去活動を行うことはできませんでしたが、3日間で563.3㎡、約28トンのナガエツルノゲイトウの除去に成功し、25トン以上除去するという目標を達成しました。事後勉強会では学生全員と地元関係者の方々11名で、印旛沼と今後の活動についての意見交換を実施することができました。

また、メディアにも取り上げていただくことができ、土台作りとしてとても良い活動になりました。



除去活動前の神崎川のナガエツルノゲイトウ



除去活動後の神崎川のナガエツルノゲイトウ

メディア掲載

名称	掲載日／放送日時	掲載面／番組名
日本放送協会（NHK）	平成 28 年 8 月 18 日（木） 20 時 50 分	NHK 首都圏ニュース
日本放送協会（NHK）	平成 28 年 8 月 18 日（木） 14 時頃	NHK NEWS WEB
千葉テレビ	平成 28 年 8 月 18 日（木） 18 時～	NEWS チバ 600
朝日新聞	平成 28 年 8 月 20 日（土） 朝刊	ちば首都圏

所感



IVUSA のプロジェクトとして初めて実現した「印旛沼クリーン大作戦」。これまでは参加型でしたが、今回は主催として活動を作り上げました。活動当日は参加して下さった地元の方や関係者の皆様とコミュニケーションをとりながら作業を行い、印旛沼の現状やそこに生息する生き物のことも同時に学ぶことができました。唯一日中晴天に恵まれた 2 日目に、全力を尽くし目標の 25 トン以上の除去を達成し 3 日間で 28 トンを除去することに成功しました。しかし 1 日目のゲリラ豪雨や 3 日目の暴風雨の影響で、予定より除去作業の時間が大幅に短くなってしまったことで大きな群落が残り悔しい思いをしました。

3 日目の夜には関係者の皆様と事後勉強会を行いました。そこで活動の振り返りや印旛沼・この活動の未来について意見交換をできたことは今後活動を継続していくためにとっても貴重で有意義な時間であったと思います。不安定な気候で臨機応変に対応することが多くありましたが、けが人が出ることもなく全員で元気に目的達成に向けて前進できたことがとてもうれしいです。初めてのことが多くマネージャーとして不足していた部分もあったと思います。しかし活動中に全員が目的に向かって一致団結したことを感じることができ、とても感動しました。活動の最後には関係者の方々に「ぜひ来年も来てください」と仰って頂けて、今回の活動を実現させた甲斐があったと思え、今回の悔しさを来年に晴らしたいと思いました。関わって下さったすべての皆様に感謝いたします。今後も印旛沼を地元の方々にとって身近な沼にしていくなために関係者の皆様と共に活動を継続していきたいと思っています。(印旛沼クリーン大作戦マネージャー 東洋大学 2 年 中山紗瑛)

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

災害救援、国際協力、環境保護、地域活性化の 4 分野を柱とし、カンボジアでの小学校建設活動、多摩川清掃、中国黄土高原緑化活動など、多岐に渡って活動を展開。2002 年 5 月に、特定非営利活動法人の認可を受け、2006 年には、過去 50 回に及ぶ災害救援活動と、日々の会員の危機管理講習や災害想定訓練が評価され内閣総理大臣表彰を頂きました。ま

た、国内外あわせて、今までに 1,866 (2014 年度末) の事業を実施。毎年 8 月末～9 月頭の 3 日間、千葉県の大九十九里浜で当協会学生や一般参加者を含む約 400 人による清掃活動を実施しています。そして、安全面を考慮し、大規模な人数での活動を実施してきた活動のノウハウや実績を活かし、今年度も阿蘇海環境づくり活動を行いました。現在では首都圏・近畿地方を中心に、約 90 大学、約 3,000 人の学生会員が所属しています。

<本部>

住所 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102

TEL/FAX 03-6751-2683 E-mail:ivusa-office@ivusa.com URL <http://www.ivusa.com>

<関西事務所>

住所 〒569-1121 大阪府高槻市真上町 1-1-18 Insist21 - 3B

TEL/FAX 072-601-5109 E-mail:ivusa-office@ivusa.com